

北海道大学低温科学研究所 研究集会

東南極トッテン氷河沖における生物地球化学的研究のための鉄観測実現に向けた研究集会

日時 2025年11月21日（金） 13:00~17:30

場所 北海道大学低温科学研究所 2階会議室

○出席者 (*研究代表者、 **受入責任者)

西岡純**、小野数也、村山愛子（北大低温研）

漢那直也、栗栖美菜子*、海老原諒子（東大大気海洋研）

杉江恒二（JAMSTEC）

佐守那菜（北大水産）

平譯亭・平野大輔・真壁竜介（極地研、オンライン参加）

近藤能子・井原誉（長崎大）

○研究概要

南大洋では、基礎生産者である植物プランクトンの増殖が鉄の不足によって制限されている。そのため、温暖化に伴う生物への影響を評価する上では、南大洋における鉄の挙動の理解は必須である。東南極に位置するトッテン氷河域では氷床の融解損失が進み、それに伴い物質循環や海洋生態系にも変化が起きていることが予想されるが、鉄の循環に関する理解は不足している。2025年3月にはトッテン氷河沖において、初めての鉄の観測を日本南極地域観測隊（JARE）のもと実施した。本集会では、2025年の観測結果を踏まえて、2026年にも予定されている観測に向けての課題の洗い出しや、方向性を議論する。

○議事次第

13:00-15:00 66次の観測データの共有と67次の観測点（漢那、栗栖）

15:00-15:30 観測の流れ、役割分担（杉江）

15:30-16:00 67次の配水案（栗栖）

16:00-16:30 海氷中の微量元素分析のための検討（海老原）

16:30-17:30 総合討論